

第21回名古屋ビジネスセミナーを開催

●大学院経済学研究科

大学院経済学研究科附属国際経済政策研究センターは、4月14日(火)、日本経済新聞社名古屋支社会議室において、第21回名古屋ビジネスセミナー「タックス・イーターを暴く!」を開催しました。この催しは、名古屋大学経済学部同窓会である一般社団法人キタン会と共同で行っており、今回は弁護士・経済評論家の志賀 櫻氏を講師に迎え



講演する志賀氏

ました。

かつて塩川正十郎財務大臣は「母屋（一般会計）では粥をすすっているのに、離れ（特別会計）ではスキ焼きを食べている」と国会で答弁しました。公共事業などの大規模予算を掠奪する手口はもはや初歩的であって、いまでは経済のアンダーグラウンド化を背景にした極めて巧妙かつ悪質な手口まで横行している状況にある、との指摘もあります。いわゆるタックス・ヘイブンを活用した国際的租税回避の問題は、その典型といえるでしょう。

志賀氏は財務官僚として税、国際金融に従事し、現在は税務訴訟専門弁護士として活躍する税のエキスパートです。講演では、予算、財政投融资、租税特別措置等々、税に関する様々な局面で暗躍し不公正に利益を得る者を「タックス・イーター」と名付けた上で、公開資料ではなかなか見えてこない影の部分に強烈な光を浴びせて問題を暴きました。こうした問題の解決には国民一人ひとりが関心を寄せる必要があること、また自身にまつわる税の使い道に関心を持たないと自分自身がタックス・イーターになりかねないとの志賀氏の指摘に聴衆は聴き入っていました。